

Nagoya Noh Theater  
July 2018

能「頼政」《半能》



写真提供:久田勘鷗

# 名古屋能楽堂

## 七月定例公演 レクチャー公演

### 能と狂言の 〇〇な関係

よりまさ 頼政と通圓  
つうえん — パロディとしての狂言 —  
命をかけたそれぞれの戦い —

狂言 能

よりまさ 「頼政」《半能》(観世流)  
シテ 久田 勘鷗  
つうえん 「通圓」(和泉流)  
シテ 佐藤 友彦

能と狂言の前に  
レクチャー解説があります。

平成30年  
7月1日(日)

14:00開演 (13:30開場)

指定席……………3,100円  
自由席(一般)……2,100円  
自由席(学生)……1,100円

※当日券は自由席のみ500円増となります。

前売券発売4月27日(金)

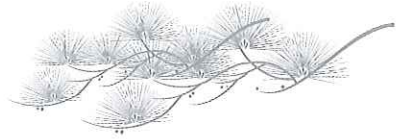
**前ご来場の方に抽選で素敵なプレゼント!**  
本公演にご来場の方の中から抽選で10名様に能楽グッズをプレゼントします。  
※ご入場の際にお配りするパンフレットに応募券[ご応募の締切は休憩終了まで]が入っておりますのでご確認ください。

●イヤホンガイド 演能の解説が聞ける受信機を無料でお貸しします。(日本語/英語)  
Noh performance Guide/Rent-free for a wireless headset(Japanese/English)

# 名古屋能楽堂 七月定例公演

<レクチャー公演>

\*七月定例公演は「レクチャー公演」として通常の定例公演に比べ低料金で、解説付きとなっています。



◇レクチャー解説…午後二時から(十五分)  
『頼政』について 吉沢 旭

## 能 頼政(半能) (親世流)

シテ	源頼政	久田 勘鷗
ワキ	旅僧	高安 勝久
笛	大野 誠	後藤嘉津幸
小鼓	河村眞之介	久田三津子
大鼓	後見	祖父江修一
伊藤 裕貴	松山 幸親	
吉沢 旭	清沢 一政	
八神 孝充	上野 朝義	
本田 勲	久保信一朗	

休憩十五分

◇レクチャー解説…休憩終了後(十五分)  
『通圓』について 野村又三郎

## 狂言 通圓 (和泉流)

シテ	通圓ノ霊	佐藤 友彦
アド	旅僧	鹿島 俊裕
アド	在所ノ者	井上松次郎
笛	大野 誠	後藤嘉津幸
小鼓	河村眞之介	今枝 郁雄
大鼓	伴野 俊彦	藤波 徹
後見	野村又三郎	松田 高義
地謡	伊藤 泰	

◇終演後  
『ヤホンガイド』  
久田 勘鷗

(午後三時五十分頃終了予定)  
日本語/伊藤利香(名古屋能楽堂イヤホンガイド)  
英語/藤江さおり(通訳ガイド)  
都合により出演者が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## ◇能解説「頼政」(よります)

源三位頼政は、七十才を越えてから挙兵し、全盛時代の平家と戦って敗れ、宇治の平等院で自害し果てた。頼政はその生涯を通じて屈折した思いを心の奥に持ち続けていたが、それは人間の潜在的な「悲しみ」に通じているものであったのかもしれない。世阿弥作の能「頼政」には、その人物像がちらほらと見え隠れする。  
(あらず)諸国一見の僧(つ)が都から南都にむかう途次、宇治の里に寄って、山の姿、川の流の美しい名所の景色を眺めていると、この里に住む老人(シ)があらわれ、宇治の名所についての会話をかわし、平等院へ僧を案内する。平等院の庭には扇の形に残された芝があった。扇の芝と名付けられている。その芝は頼政が扇を置いて自刃した跡であった。又その月も日も今日に当たっていた。このように語るこの老人は、実は悲劇の主、頼政の霊であつて、名乗りもあらず消え失せてしまった。中入  
宇治の里人(ア)狂言が僧を見つけて言葉交わす。僧の求めに応じて、この地における源平の合戦の有様をくわしく語る。僧は頼政の跡を尋うと、法体の姿で甲冑を帯びた頼政の霊があらわれ、僧の弔いに感謝し、悲痛な敗戦の様子を以下のように語るのだ。

平家の横暴を追討すべく、治承四年の夏、頼政は高倉の宮(仁王)後白河天皇の第二皇子を立てて兵を興したが、味方利あらず都に近江の三井寺へ宇治へ大和路へと急いで移動をしていた。しかし三井寺から宇治の間で高倉の宮は六度も落馬した。これは運不足の故と考え、宇治の平等院で休息をとり、水量の多い宇治川の橋の敷板をとりはずして平家方の通行の妨げ策を講じ、源氏のシボルである白旗をなびかせて、寄す敵を待っていた。こうして源平の軍勢は宇治川の南北の岸に対峙する。ところが難所の大河である宇治川を、平家方の田原の又太郎忠綱が三百余騎を川水にさざつと打ち入れて、大声で叫びながら此方の岸に渡つてきた。味方の勢はこたえきれず、半町ばかり思はずとずさりをして、こを最期と戦つた。しかし頼政が積みとす一人の子息連も討たれてしまい、老武者頼政はこれまでと違って、平等院の庭に扇を置き自刃したのであつた。

歌人としても知られていた頼政の辞世の歌  
埋木の花咲くこともなかりしに身のなる果はあわれなりけり  
苦惱多き人生を送つた老武者頼政の悲痛な最期であつた。

(観能の為の助言)前シテの名所を僧に説明する部分の風情と、もう一つ「吾が身が頼政の化身であること」をほめかして中入する節の奥深さ。○頼政は法体の身で甲冑を帯びている。○後シテ、「そもそも治承の夏の頃」以下はこの「あらず」で説明した内容が、文語体ではあるが比較的平易に書きとれる筈。○くづつばみを勘え川水にすこしもためらわず、「以下勇壮な戦いの様子」が地謡によつて語られるが、この部分は敵方のすさまじさが頼政によつて語られるので、勇ましいは敵方、そうであれば一層味方は悲痛な敗北であることの認識。この部分、崩れ落ちる「自己」の表現の「プロログ」(序言)である。○修羅の苦患の描写はなく、悲痛な最期の様子を「し」蓋は草の陰に消えて、この深い深みをたたえた能は終了する。○頼政は文学にも業績あり、名歌を多く残している。

## ◇狂言解説「通圓」(つうえん)

旅の僧が、京の宇治橋のたもとを通り掛かると、無人の茶屋に茶湯が手向けられてあるのを見て不審に思い、在所の者に理由を尋ねます。此処で大量の茶を点てて狂いにした通圓という茶坊主の事を聞き知ると、彼の亡霊が現れ、旅僧に成仏申いを頼んで、点て狂った最期の有様を語りつつ舞つて見せます。  
通圓とは、宇治橋端で通行人に茶を提供していた茶人で、平安末期より創業の茶舗「通圓茶屋」が今も継承されています。初代通圓が仕えた源頼政との関係が「頼政」に対してこれをパロディ化した狂言「通圓」として、比較上演される事があります。

狂言でありながら、旅僧をワキに在所の者をアに現れて、能掛りの展開演出が特徴の演出で、ほかに傘張りの「花巻」や尺八吹きの「案阿弥」、また「鐘」や「野老」(こ)、「ヤマノイモ科」の性多半年など動物植物を主人公(シ)に据えた狂言も少なからず存在します。  
(井上菊次郎)

## 七月定例公演事前学習講座

6月16日(土) 14:00~15:30

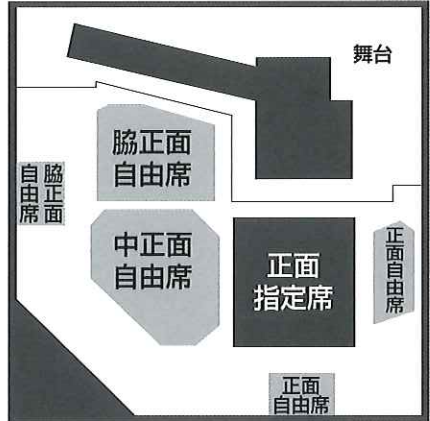
[受講チケット] 七月定例公演とのセット券500円、一般券1,000円 ほか  
◆能「頼政」のあらずじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

チケット料金(税込) \*前売券発売日 平成30年4月27日(金)

	指定 Reserved	自由 Non reserved plus ¥500, on the day	
		一般 Adult	学生 Student under 25 years old
前売 Advance sale	3,100円	2,100円	1,100円

\*当日券は自由席のみ500円増となります。\*学生券は25歳以下を対象とします。  
\*事業団友の会会員(前売のみ)、障がい者手帳等をお持ちの方(付添1名含む)は1割引(学生券をのぞく)  
(名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。)  
\*上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は、事前に許可を受けた方以外のご遠慮下さい。\*未就学児のご入場はお断りいたします。

前売券取扱所 Ticket Office  
名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088(チケット郵送可)  
名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387  
(平日9:00~17:00/チケット郵送可)  
\*名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。  
(工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。)  
栄プレチケ92/TEL.052-953-0777  
チケットぴあ/TEL.0570-02-9999(Pコード 485-591)  
\*お近くのセブンイレブン、サークルKサンクスでもお買い求めいただけます。  
\*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも1割引きます。(名古屋能楽堂取扱いのみ)



\*地下鉄・バス等公共交通機関をご利用ください。  
ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい  
「友の会」会員募集中!  
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 TEL.052-249-9385